



広報

こちがわ

6月1日

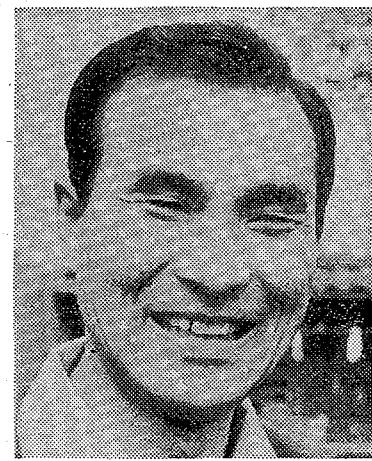
昭和56年(1981) No.642

編集

越谷市役所企画部広報課

毎月2回(1日・15日)発行
昭和56年6月5日 第三種郵便物認可

さわやかな汗を流して スポーツ教室開講



野島には昔の越谷の姿が残っていますね、と野口さん

56年度のスポーツ教室が5月下旬に開講し、7月下旬まで行われます。種目はテニス、卓球、フォークダンスなど12種目。健康に自信のない人が増えている反面、積極的に体を動かし健康な汗を流そうという人も多いようです。スポーツ教室にも約400人ちかくの人々が参加し、年々さかんになっています(写真は24日に開講した硬式テニス)。

越谷市は都心から一時間という立地条件にあるため、急激な人口の増加を示した。同時に都市化の波に洗われ、市内全域に開発の手が伸び、環境の変化はいぢるしい。本来、越谷市は比較的自然環境に恵まれた土地でもあったと思う。そして、古い時代から農業とのかわり合いが多く、その祖先は恵まれた河川等をよの良くなぎ、農業耕作の基礎を作ったと伝わる。そして、近代開発を経て、社会生活を豊み、人間模倣を持ち、人口二万人を超えて、二〇数年間で越谷市の発展は目ましかった。

私は越谷に生まれた。小学校の頃は戦争のまつだなかであった。当時は戦況も良くなく、東京に隣接する越谷もその影響があった。今では想像もできない空での壮烈な戦闘等を目撃した。また、敵機の機銃で危険にさらされたりともあった。戦争とは何かわからなかった子ども心で、樂しく遊んで過ごした想い出の一コマとして忘れられない。今はあの極端な戦争は遠いものとなつた。現代は競争社会ともいふべき競争社会が作られたと云はれる。そして、近代開発を経て、社会生活を豊み、人間模倣を持ち、人口二万人を超えて、二〇数年間で越谷市の発展は目ましかった。

越谷市は時代を望むことができ、今も健在。道路も整備され、車社会のもとに飛躍的な発展をした。

そして今、開発地もあり、緑は比較的多く残る住みやすい郷土越谷となつた。また、イメージも一変した。しかし見方を変えてみれば、今の社会機構の中、将来開発に開拓を重ね、何

開発も歴史の一ページ

野島三九一
のぐ
ち
たかし
(46歳)

越谷とわたし

72 ◇◇

「越谷とわたし」は、あなたのコーナーです。みなさんの投稿をお待ちしています。字数は900字程度です。

56年度分の納税通知書を6月中旬にお送りします。第1期の納期限は6月30日(火)です。納期限内納付にご協力ください。

野島には昔の越谷の姿が残っていますね、と野口さん

10年先、いや何年先かは縁は薄れ、公費が目に余り、味気ない環境になりかねないのである。人の心が、これだけに対する心構えが、何より大切なのだ。これに市立地条件を活かし、緑とういのあるまちづくりに恒久的なものを見みたいと思う。越谷市は歴史にゆかりのある「ふる里」でもある。

新緑の候ともなれば荒川上流では武蔵野の風景を残す。時にはカッコ一の鳴き声も聞こえたのだが

